

学びと学校へ向かい合うために

～不登校生徒との遠隔授業から～

青森県立青森聾学校

阿保 孝志朗

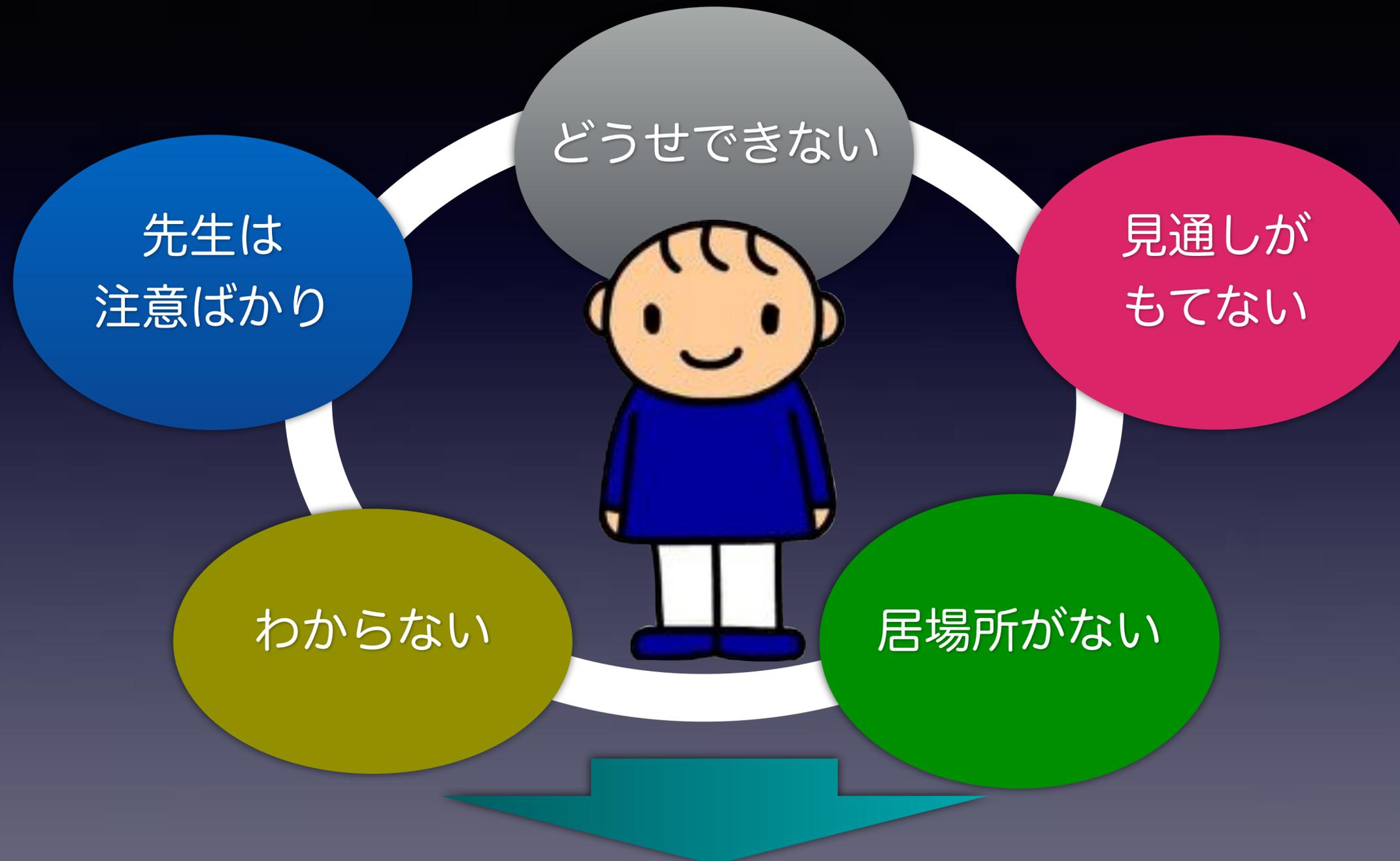
対象生徒の実態

- 中学部2年生（14歳）
- 中学部重複学級に在籍
- 注意欠陥多動性障害と自閉症
- 小2で不登校になり、小5の途中から本校に転入。

対象生徒の実態

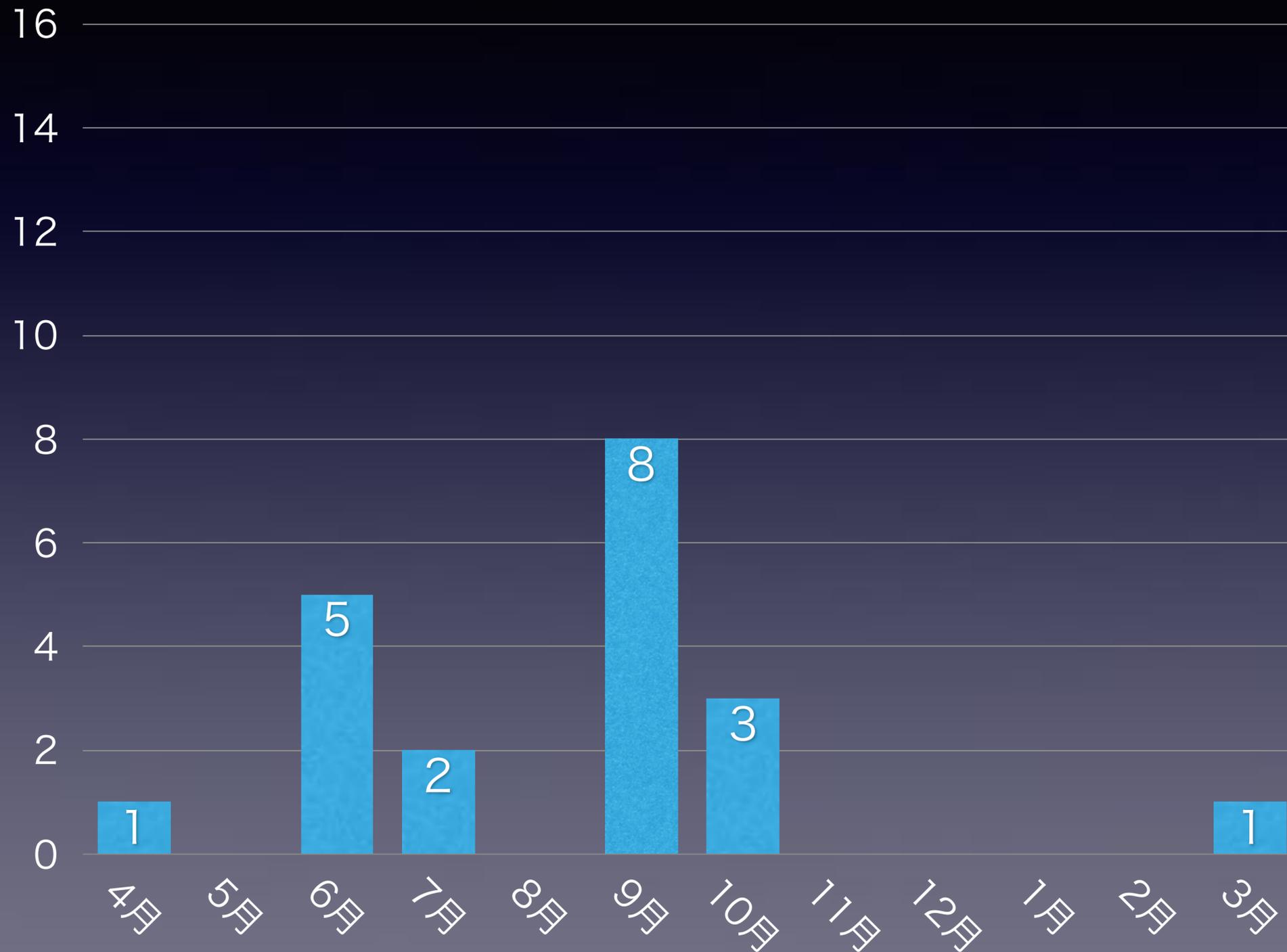
- 転入後もあまり登校できない。
- 授業を受けた経験が非常に少なく、
集団学習にも慣れていない。
- 生活が不規則で昼過ぎに起きることがほとんどである。
- 登校する場合も午後からのことが多い
ため、参加したい授業にも、あまり
参加できない。

生徒について



学校から遠ざかってしまった

H26年度の出席状況



登校した日について

- 中学部に入学して新担任の確認 (1日)
- 宿泊生活学習の事前学習及び当日 (7日)
- 調理活動及びお店やさんの学習 (4日)
- 施設見学の事前学習及び当日 (4日)
- 文化祭の練習及び当日 (3日)
- 修了証書を授与 (1日)



興味・関心がある時はくる？

iPadがあるじゃないか！

登校を促すために

(H27年1月～3月)

生活単元学習や学級活動の時間にFaceTime



「次はいつ?」、「僕もやりたい」ということが増える。

学習内容によって興味関心を示すことがあったが、
登校にはつながらなかった。

来られない時には
iPadで
授業をやってみよう

遠隔授業のねらい

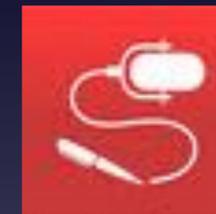
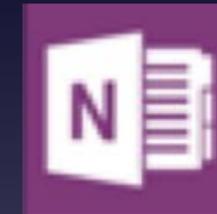
- ・遠隔での授業を通じて、人との関係の安心感や学習への関心を高め、登校意欲を高める。
- ・欠席時の学習を保障し、学習する習慣や学習態度を形成する。

使用したアプリ

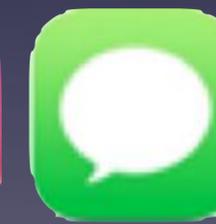
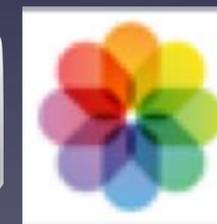
- 学校と自宅をつなぐために



- 学習状況を共有するために



- 文字を出力するために



指導の経過と成果

- ・ 担任の話（提案）を聞くようになった。
- ・ 担任や友達とのやりとりを楽しみに参加する様子が見られた。
- ・ 友達の発表の良い所を褒めることができた。



話し合い活動に参加できるようになった

6 指導の経過と成果 (数学)

本当の気持ちは…

未経験で不安

どうせできない

友達に知られたくない

できないことを
知られたくない

本当はできるようになりたい

6 指導の経過と成果（数学）

- 問題は確実にできるもの
- 「計算機」「たしひきものさし」
解ききれる見通し
- わからない場合にはこっそり
ヒント  プライドに配慮
- 時間内に終わらない場合は
個別の時間に
継続した学習

一つの課題を確実に終わることができる

遠隔による学習

(数学)

解ききれぬ見通し

- ・ 授業に自然に参加することが増えた。

- ・ 課題を終えるまで取り組むことができるようになった

プライドに配慮

継続した学習

- ・ 友達と一緒に参加できることができるようになった。

勉強することに慣れることができた

遠隔での学習

(国語)

名前を漢字で
書く必要がある？

字を書く必要がある？



遠隔での学習

(国語)

本当の気持ちは…

漢字が
わからない

きれいにかけない

間違うかもしれない

書けたらいいのはわかってるけど



指導の経過と成果（国語）

1. 1画ずつ真似させて苦手なひらがなが書くように

勉強を意識させない

2. 1画ずつ内緒で真似させ、名前の漢字を書くように

3. コレクションの写真を撮って文字を付けて自慢

興味・関心

文字を使う必要性

4. 絵日記の代わりにLINEで写真
絵日記

形にとらわれない

指導の経過と成果（国語）

興味・関心
文字を使う必要性

写真の上に文字入力できるようになった

勉強を意識させない

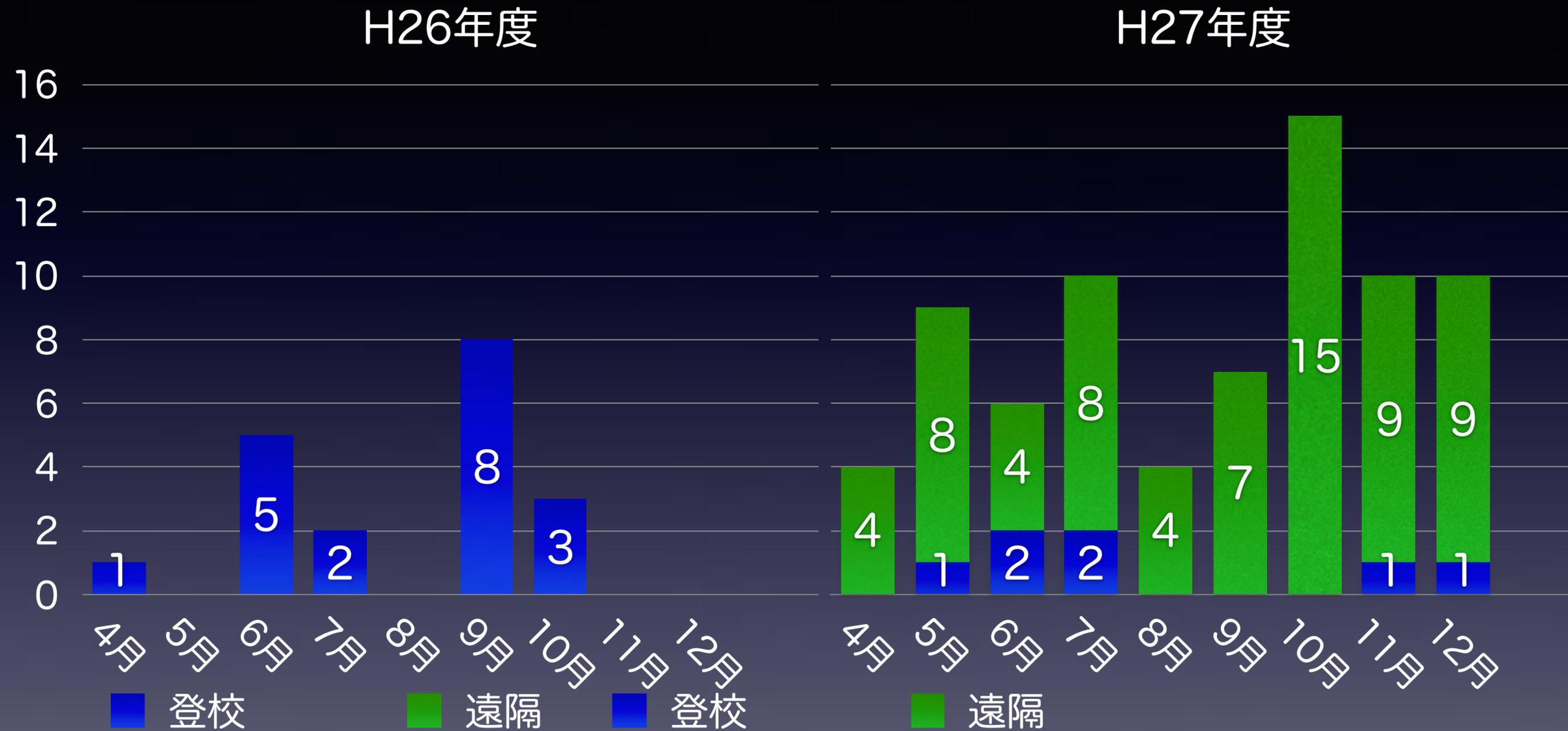
- ・ 名前を漢字で書けるようになり、書きたい気持ちが強くなった

形にとらわれない

- ・ 自分の気持ちを伝えることが増えた

できる方法があればやってもいい
という思うようになった

出席状況の変化



出席簿上では5.5倍増に！

学校が好きになった!?

気持ちの変容

(発言の分析)



報告

質問

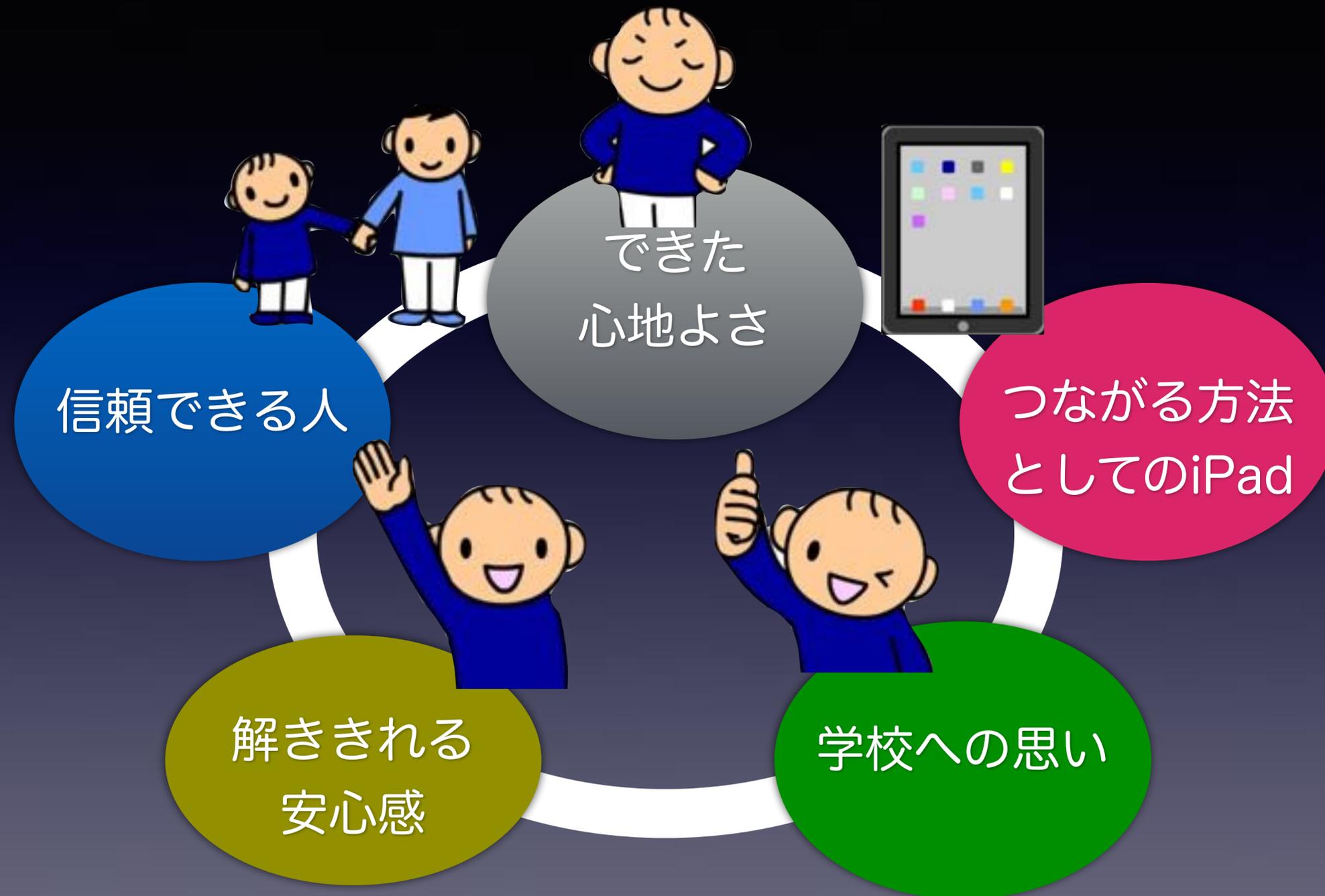
共感

気持ちの変容

(発言の分析)

- ・ 遠隔でのやりとりを重ねるにつれ、もっと相手のことを知りたい、もっと自分のことを知ってほしい欲求という気持ちになり、人と関わることを楽しいと思うようになった。
- ・ 返信があるという安心感から、伝えることを実感し、さらに伝えたいという気持ちが強くなった。

彼を支えたもの



スタートラインに立つことができた！

その他の成果



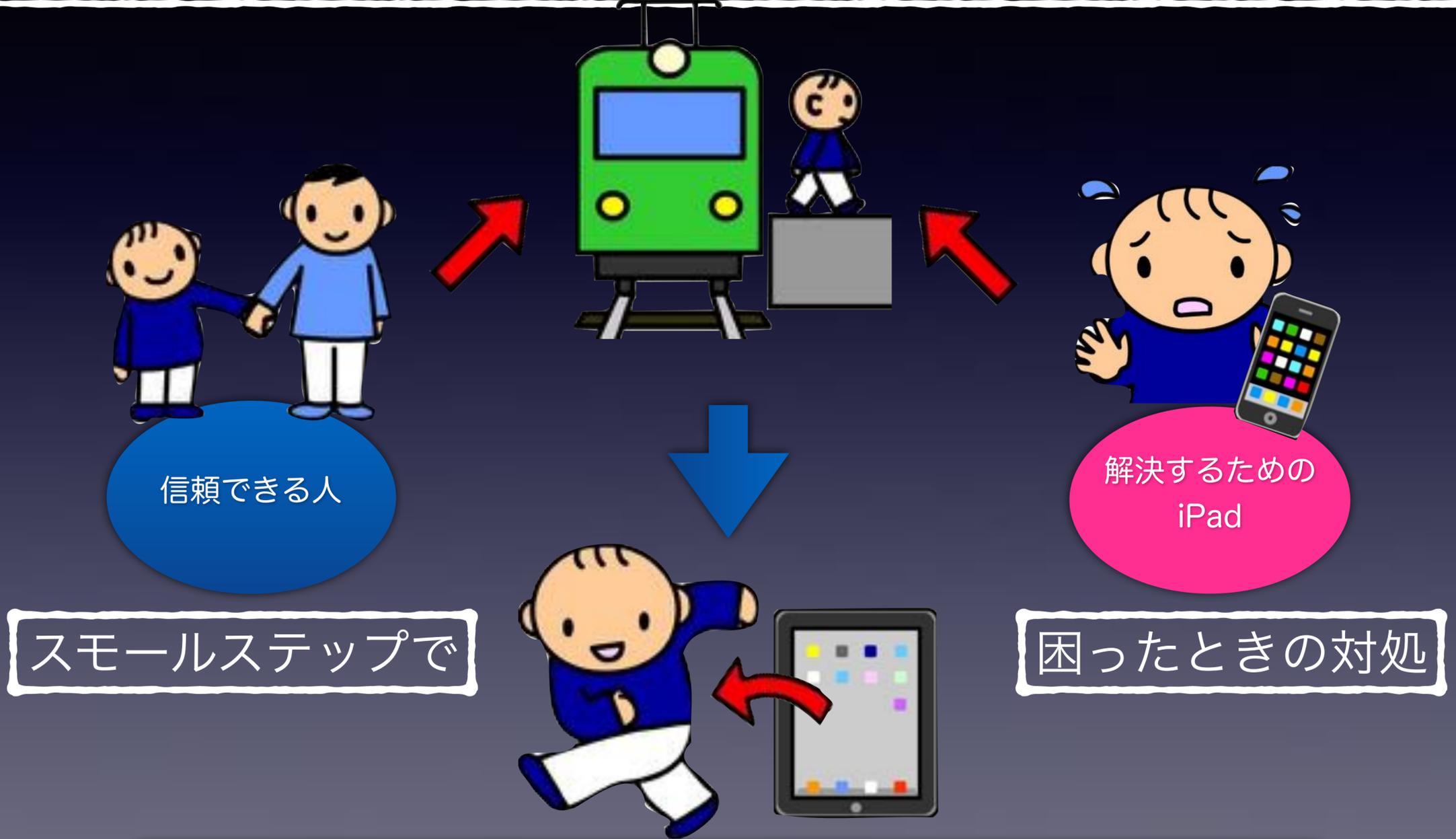
- ・ 毎日やりとりすることで、学校の様子を知ることができ、実際に登校した際にも落ち着いて過ごすことが増えた。
- ・ 不安定になった時も、話を聞いて提案を受け入れるようになった。
- ・ 参加できなかった時は、落ち込みすぎることにも。



iPadを介して
学校が居場所になった！

高等部進学へ向け

経験の広がりに向けて(自立通学へ向けて)



少しずつ世界が広がるように

現在の彼の様子

- ① 2週間に1日以上は登校するようになった。
- ② 国語や数学以外の遠隔授業も行うようになった。

～聴覚特別支援学校での実践～
中間報告

対象生徒の実態

- 高等部1年（15歳）
- 先天性感音性難聴
- 人工内耳を装用しているが、聴こえの状態はあまり良くない
- コミュニケーション（第1言語）は日本語、日本語対応手話を使用している
- 頑張り屋で弱音を吐かない。
- 一般の大学進学を希望



彼女にとっての魔法の種は？



自分の将来を考えるための種



彼女にとっての魔法の種は？

聴覚障害

情報不足

コミュニケーション

論理的な思考
因果関係の推理
複数の条件を同時に考慮



伝えやすい、伝わりやすい
方法を持つこと

必要な情報を選べるようになること
確実に理解できるようになること

ご清聴ありがとうございました